

## 熊山遺跡とヴァン仏教遺跡

丸谷憲二

### 1 はじめに

中央アジアのタジキスタン共和国にヴァン仏教遺跡がある。タジキスタンは、シルクロードの国際商人として栄えた**イラン系民族・ソグド人の本拠地**（ソグディアナ）である。西方の諸宗教を東方へ伝来する中継地でもある。仏教のインドから中国への伝来もタジキスタンを経由している。

#### 1.1 タジキスタン共和国



1990 年代に内戦があった。国土の 90% は山岳地帯であり 6,000～7,000m の山々が連なる「世界の屋根」パミール高原を有する国である。北部にはフェルガナ盆地にイスタラフシャン等の古都があり、東部には国土の 45% を占めるゴルノ・バダフシャン自治州がある。1998 年 7 月、秋野豊(国際政治学者、筑波大学助教授)国連タジキスタン監視団 (UNMOT) 政務官を含む 4 人の UNMOT 要員が、首都ドゥシャンベ東方の町ラビジャール近くで殉職した。秋野豊氏は、日本政府が国連の要請に基づき、1998 年 4 月よりタジキスタンに派遣されていた。

### 2 帝釈山靈山寺創建と安如宝

熊山遺跡の隣に天平勝宝(749～757 年)年間に鑑真和尚(688～763 年)の開基伝承を持つ帝釈山靈山寺があった。鑑真に随行して渡来した弟子に中央アジアの出身者がいる。「安如宝」である。「安」とは昭武九姓の一つで、「安国」(ブハラ)の出身者である。ブハラはソグディアナの一大都城である。安如宝はソグド人である。安如宝は建築に造詣が深く、唐招提寺の伽藍造営に多大な功績があった。熊山遺跡とは、ソグディアナに幾つも建っていた石積みの仏塔を安如宝が日本で再現したものと推定される。

### 3 唐招提寺と安如宝

鑑真の唐招提寺は講堂と僧坊を持つだけの律宗の学問寺であった。鑑真と共に渡来した安如宝が鑑真の意思を継いで伽藍を建てた。如宝は中国人ではなく胡国人であった。つまり西域出身のソグド人である。彼の出身地はブハラで、現在のウズベキスタンである。

ソグド人は中央アジアのシルク・ロードの拠点に住み東西貿易によって栄えた。宗教的に寛容であり、いろいろな宗教を信じる人達がいた。仏教徒も多数いた。西域はアレキザンダー大王に占領され、ギリシャ文化が入ってきた。如宝はギリシャ建築も知っていたのであろう。金堂の正面の柱の数は 8 本あり、アテネのパンテオン神殿と同じである。奈良はシルク・ロードの終着点である。

### 3.1 安如宝

安如宝(安如保・如保・731～815年)は奈良・平安前期の律宗の渡来僧である。中央アジアのサマルカンド地方の安国の出身である。鑑真に師事し天平勝宝6年(754年)正月に来日した。774年に東大寺戒壇院戒和上となっている。一時下野薬師寺(栃木県下野市)に住した。鑑真が没し委嘱により唐招提寺に帰住し、第4代住職となり伽藍造営と律宗の高揚に尽力した。

ソグディアナは現在の中央アジア・ウズベキスタンとタジキスタンとの国境地域にあった。ソグド人たちは交易の民として、西域からトルファン、敦煌周辺に聚落をつくり、西安にまで進出していた。「楊貴妃のお気に入り」安祿山はソグド人軍閥の領袖であったが「安史の乱」を起こし、揚州ではソグド人8万人が虐殺された。その生き残りが安如宝である。

### 4 ソグド文字と法隆寺

法隆寺献納宝物の香木白檀2点に焼印文字が、1986年に東野治之氏と吉田豊氏(神戸市立外国語大学)によりソグド文字のニーム・スィールと解読された。法隆寺は607年建立であり、**法隆寺と突厥国との交流記録**である。ソグド語は中央アジアにおける交易言語である。中国人商人とイラン人商人との間の共通語でもあった。

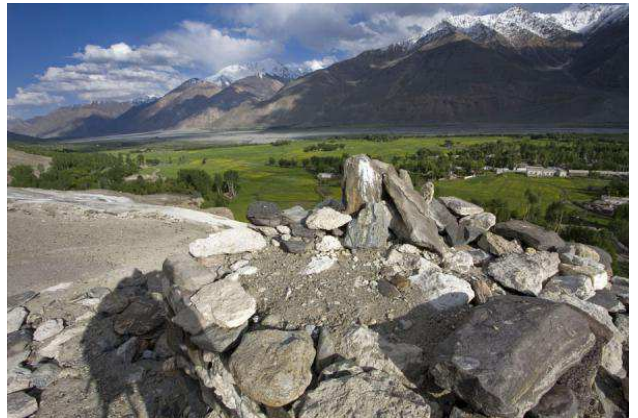
ソグド文字からウイグル文字が派生し、ウイグル文字は後にモンゴル文字の元となった。

### 4 ヴァン仏教遺跡 Tajikistan: Vrang Buddhist stupa

安如宝の生誕地タジキスタン共和国のヴァン仏教遺跡は日本では知られていない。**熊山遺跡と最も似ている遺跡である**。仏教僧院と石窟の遺跡が残る村の丘の上に基壇が残されている。住居跡や裏山には城砦跡もあり古くから栄えていた。ヴァン仏教遺跡の背後に広がるのがパンジ川とワハーン渓谷である。











## 5 皮革様固形物の重要性

仙田実氏は「奈良三釉小壺と皮革様固形物は盗掘のさいに同時に取り出された。皮革様固形物は、所在も実態も性格づけも、まったくはつきりしない。」としている。

ヴァン仏教遺跡の写真から、皮革様固形物は「騎馬民族の必需品である羊の胃袋を干して作った皮の水筒」と推定される。突厥国からの渡来者を証明する最も重要な遺物が行方不明になっている。

## 6 まとめ



熊山遺跡、靈山寺、安如宝、中央アジア・タジキスタンのヴァン仏教遺跡がつながった。イリ川は、新疆ウイグル自治区北部のイリ・カザフ自治州からカザフスタン南西部のアルマトイ州にかけて流れる川である。天山山脈に源を発し、西に流れバルハシ湖に注ぐ。流域のイリ地方では烏孫、チャガタイ・ハン国、ジュンガルといった遊牧国家が興亡した。イリ・カザフ自治州等のイリ川周辺から渡来した突厥系ソクド人が熊山遺跡を建築し、故郷のイリ川を思い伊里川と命名した。伊里川は流域面積 42.7 平方キロメートル、法河川流路延長 12.13km の二級水系である。イリ川周辺からの渡来人が、伊里の地名の由来である。

## 7 謝辞

平成 26 年 5 月 24 日開催の熊山遺跡群調査研究会 平成 26 年度総会シンポジウムで横山修尚氏が「鑑真和上と熊山石積遺跡」を発表され、「突厥系ソクド人である安如宝とヴァン仏教遺跡」を紹介された。「岡山県内でのソクド人の業績発表は始めて」である。

## 8 参考文献

- ① 『熊山遺跡・日本・謎の石造遺物紀行 4 岡山編「熊山遺跡」』  
[http://www.geocities.jp/gur\\_bahram/msrj/msrj04.htm](http://www.geocities.jp/gur_bahram/msrj/msrj04.htm)
- ② 西遊旅行社  
[http://www.saiyu.co.jp/special/central\\_asia/midokoro/tajikistan/index.htm](http://www.saiyu.co.jp/special/central_asia/midokoro/tajikistan/index.htm)
- ③ 『ヴァン仏教遺跡』  
<http://www.traveladventures.org/continents/asia/vrang-buddhist-stupa06.html>

- ④『元亨釈書』卷第十三 『新訂増補 国史大系第三十一卷』昭和40年 吉川弘文館
- ⑤『吉備国の語源「黄蕨」と羈縻（きび）政策「熊山遺跡出土品」の考察』丸谷憲二  
平成22年4月17日
- ⑥『キルギス共和国と日本』丸谷憲二 平成23年8月13日
- ⑦『唐招提寺』[http://www.geocities.jp/general\\_sasaki/nara-toshodaiji-ni.html](http://www.geocities.jp/general_sasaki/nara-toshodaiji-ni.html)
- ⑧『シルクロードの光と影 日本とシルクロード(5)唐招提寺の住職はソグド人だった』  
<http://silkroad-j.lomo.jp/nittyu/nittyu23.htm>
- ⑨『シルクロードの民族音楽の興亡』  
<http://uruseiyatsura.blog62.fc2.com/blog-entry-118.html>
- ⑩『幸崎川・伊里川水系等河川環境管理基本計画』平成10年 岡山県
- ⑪『岡山県清流保全地域別指針地域編 おかやま清流ガイドライン』平成9年 岡山地域  
振興部環境保全局環境指導課
- ⑫『海でつながる倭と中国-邪馬台国の周辺世界』奈良県立橿原考古学研究所附属博物館編  
2013年 新泉社

## 9 追記

中央アジアのソグド(現在のソグド:カザフスタン・キルギス・タジキスタン・トルクメニスタン・ウズベキスタン)という地域は、都市国家が100ほどもあって、互いに合従連衡していた。ついたり離れたりしながら、全体として中国になびく時、あるいはササン朝ペルシャになびく時があった。

ソグドの研究者 菅谷文則氏(奈良県立橿原考古学研究所所長)